

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年3月28日

スタッフ 7名

事業所名 はぐはぐ子ども村西都

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	スペースの有効活用に努めている。	園庭も広く環境を整えている。
	2	職員の配置数は適切である	7	0	適切である。	現状維持。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	0	部屋を仕切りを使ったりカーテンや布をかけるなどして環境整備している。年少々のカバン入れは顔写真をつければわかりやすくしている。	構造化に加え環境設定は常に職員間で検討している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	毎日掃除を行いその都度、送迎車、室内、玩具など消毒をし清潔に努めている。活動により広いスペースを確保し安全に活動できるようにしている。	現状維持。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0	朝礼屋礼、療育終了後振り返りをする。全職員で共有している。	朝礼、屋礼でPDCAをすることで職員間の共通理解が出来ている。意見を出しやすい環境になっている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	保護者の意見を聞きながら業務改善に努めている。	保護者の評価表により伝達力の弱いところなどが見え改善につながっている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	ホームページにて公表している。	保護者には書面にてお知らせしている。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	0	保護者評価アンケートを実施し意見を聞いている。改善に努めている。	現状維持。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	外部研修、サーキット会、ケース会議等事業所内の研修に他事業所と意見交換が出来資質向上につながっている。	虐待防止、権利擁護研修、苦情処理セミナーなど外部の研修に職員が順番に研修を受けている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	各療法師のカンファレンスの中でアドバイスを反映させながら、日々の療育に役立て支援している。	現状維持。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	アセスメント用紙を活用している。	現状維持。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	月別活動表などを参考に具体的な内容が示された支援に必要な計画が立てられている。	現状維持していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	朝礼屋礼で個別支援目標を確認し合い全職員で共有している。	現状維持。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	療法師や保育士の意見を生かしながら立案を行っている。	各療法師の指導も盛り込みながら、子供の成長に合わせて工夫している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	サーキットのプログラムを2〜3か月ごとに見直しをしている。	遊びや季節に合った活動を取り入れたりサーキットのプログラムを見直したり子供に合わせて固定化しないよう変更している。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0	十分な観察と記録をとり、多方面の職種の意見の交換を行い支援に生かしている。	現状維持する。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	職員間で確認している。	現状維持。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	毎日の記録を書きながら情報交換の場が持たれ次の支援につながっていく。	現状維持で職員共有の時間が持てる。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	利用者ごとの記録は当日中に作成し、月毎、6か月毎にまとめ支援計画作成に生かし、改善を行っている。	現状維持。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	職員で定期的に話し合いを行い見直しの判断をしている。	現状維持。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	児童発達支援管理責任者が出席している。	現状維持。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	0	関係者の見学に対応している。	現状維持。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	/	/		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	/	/		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	担当者会にて十分な相互理解、情報共有が出来ている。	現状維持する。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	要望がある場合には情報提供をする。	担当者会議を利用し連携していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	0	当法人には児童発達支援センターがあり連携を取っている。	現状維持する。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	2	並行利用なので保育園、幼稚園、こども園等で交流している。	並行利用が多いので活動機会は普段からある。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	2	施設長や児童発達支援管理責任者が地域の会議等に参加している。	現状維持する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	電話やメールにて成長の共有をするようにしている。	担当職員が窓口になり保護者とのやり取りをしている。特に成長したことや出来るようになったことなどをメールや電話にて知らせ成長の喜びを共有している。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	0	法人がプログラムを計画し行っている。保護者には書面にて案内を出している。	必要に応じて面談の中で家庭での関わり方等を話すことがある。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	契約時に児童発達支援管理責任者が丁寧に説明している。	保護者に合わせた丁寧な説明を心掛けていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	個々の成長に合わせた計画作成の都度面談で直接説明をして同意を得ている。	個別に作られた支援計画を職員で共有している。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1	相談をされたら迅速に対応し、面談やメール、電話をしていく。	相談内容により心理士(代表)の面談も案内している。相談しやすい環境作りを心掛けたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	3	母子通園の際、保護者懇談会を設け交流の場としていたが、コロナ禍の為実施できなかった。	今後はコロナの影響を見ながら再開していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	相談等に対し、速やかに面談を行うなど対応している。	年長保護者には早めに保護者会を設け勉強会を実施したり相談は個別面談で対応したりする。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	月1回お便りを発行し写真も入れた活動報告や子供の様子を知らせている。	お便り以外にも状況によりメールや電話をしていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	職員間でも厳重注意して取り扱うことを認識していく。	現状維持する。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	信頼関係を築き丁寧にかかわっていく。	言葉使いや態度などに配慮していく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	2	コロナの影響で中止している。	現状維持。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	契約時に緊急避難場所を伝えたり避難訓練を行っていることを伝えている。また火災、地震、洪水じの避難訓練を実施している。	お便りでも取り上げ保護者には避難訓練の様子を発信している。が保護者への周知に曖昧なところのみられるので年度初めに文章で通知し案して利用してもらえようようにしていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	避難項目で伝達する音を変えている。次回はベルの音も利用してみたい。	避難場所や避難パックの準備など再確認して準備していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0	保護者からアセスメントや契約時に情報提供してもらい確認する。	管理者も把握し、児発管が個別支援計画に記載し全体でも把握する。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	個人の食物アレルギーの情報を書面化し全職員がすぐに把握できるように掲示しその都度確認しながら提供する。	二人体制で確認し合いながら提供するようにする。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	ヒヤリハット事例集を作成し回覧して全職員間で共有し事故防止に役立てる。	現状維持する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	職員で順番に県主催の研修に参加し事業所内研修を実施した。	研修に全職員が参加できるようにしている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	0	身体拘束についての社内研修等で共通理解を図り、マニュアルを整備している。	契約時に児童発達支援管理責任者が丁寧に説明し保護者に理解を得ていく。